

協定校留学【終了】報告書

留学先大学	リーズ大学	氏名	
国名	イギリス	学籍番号	
留学期間	2018年 9月 ~ 2019年 6月	記入年月日	2019年 7月 19日

1	履修した科目についてお書きください			
	主な専攻分野: 文学			
	科目名	Introducing Medieval European Literature	科目名	Art and Literature in Medieval and Renaissance Italy: An Introduction
	授業内容	中世文学とその背景について掘り下げる史学部中世科の授業。毎回違う中世ヨーロッパ作品を取り上げる。	授業内容	中世からルネサンスにかけてのイタリアの文学、絵画について学ぶイタリア学部の授業。自分で批評を行えるようにする。
	授業形式	レクチャーとセミナー	授業形式	レクチャーのみ
	単位数	20	単位数	10
	サイズ	28	サイズ	40
	難易度 Course No.	MEDV1090	難易度 Course No.	ITAL1034
	宿題の量	毎回指定された一作品を読破する。	宿題の量	作品の抜粋ページを読む(5~20頁前後で変 ^動 い)
	コメント	津田塾で教養科目として取った市川先生の世界の文学(フランス)が大変参考になった。予習では英語の作品を読み通した上で用意された質問について自分の意見をまとめた。評価は1500字、2500字程度のエッセイ2本、3:7。7人と少人数なこともあり、先生にエッセイを細かくチェック、フィードバックしてもらったのが印象的だった。	コメント	題名だけで知った気になっていた『神曲』や『デカメロン』、さらにはボッティチェリの絵画などを批評することができ興味深かった。評価は記述式のテストが100パーセント。テストは英語自体がひどいと散々な評価ではあったが、このクラスを受講したことによりイタリアを訪れた際多に楽しむことができた。イタリア、文学、美術好きにお勧めの授業。
	科目名	Victorian England: Old England and Industrial Society 1837-1865	科目名	The Best of Broadway
	授業内容	ヴィクトリア朝前半(1837-1865)の歴史や産業革命について学び理解を深める史学部の授業。	授業内容	ブロードウェイの商業的な歴史や様々なミュージカル作品について学ぶ音楽学部の授業。
	授業形式	レクチャーとセミナー	授業形式	レクチャーのみ
	単位数	20	単位数	10
	サイズ	42	サイズ	40
	難易度 Course No.	HIST2100	難易度 Course No.	MUSS1813
	宿題の量	毎回300語のレポートを提出する。	宿題の量	参考文献を読む(強制ではない)
	コメント	内容は津田の伊藤先生のイギリス史とよく似ていた。しかし史実を多面的に捉えるように強く言われた。私はこれまで歴史は事実の連続で暗記するものだと思っていたのでカルチャーショックだった。セミナー前には寝不足になった。評価は毎週提出の300字程度のレポート、3000字のエッセイ、記述式のテストが1:4:5。余談だが先生の字が現地の人でも読めないほど汚かった。	コメント	舞台学科に所属していたので一つは舞台に関するものと思い受講した。ミュージカルが生まれた背景を学び、さらに有名なミュージカルの曲が先生の生ピアノと生声で聴けるというまさにここでしか取れない授業。私の専攻から考えると無駄に思えるかもしれないが、この授業がきっかけで舞台に通い詰めるようになり英語が爆発的に上達したので悔いは全くない。評価はテストが100%。

科目名	The English Country House: Making and Meaning	科目名	Medieval Narratives in the Modern World: Nationalism, terrorism and Popular Culture
授業内容	イギリスのカントリーハウスの歴史や建築について学ぶファインアート学部の授業。	授業内容	現代にも生き続ける中世の概念を学ぶ史学部中世科の授業。ナショナリズム、テロリズム、そして騎士や魔法などのポップカルチャーを分析する。
授業形式	レクチャーとセミナー(セミナーは2回のみ)	授業形式	レクチャーとセミナー
単位数	20	単位数	20
サイズ	50	サイズ	28
難易度 Course No.	ARTF1047	難易度 Course No.	MEDV1085
宿題の量	毎回50ページ以上ある資料を予習として読む	宿題の量	毎回三つほど本の抜粋が渡されるので読む
コメント	将来建築関係や学芸員を目指す人向けだが、カントリーハウス訪問が2回あることから留学生が多く集まっていた。学部自体高めの英語スコアを要求していたので難易度は高かった。評価は2500~3000字のレポートと記述テストが1:1。セミナーでは評価なしのグループプレゼンテーションがあったので事前にメンバーと資料の読み込みや話し合いをした。	コメント	前期の中世の授業の先生から、この授業はハリーポッターなどの中世モチーフが好きな子が集まると強く勧められて受講した。実際はポップカルチャーに割いたのは2時間ほどであとは政治的な堅い内容だった。評価は2500字程度のレポートが2本、グループプレゼンテーション、プレゼンテーションのセルフフィードバックで4:4:1:1。
科目名	Worlds of Literature	科目名	Shakespeare and Global Cinema (聴講、単位なし)
授業内容	世界各国で書かれた文学を英語で読み、時代背景やテーマを理解するモダンランゲージ学部の授業。	授業内容	イギリス外で製作されたシェイクスピア映画を見て、原作との違いやその変更の意図を探る文学部の授業。
授業形式	レクチャーとセミナー(セミナーは隔週)	授業形式	映画の鑑賞、レクチャー、セミナー
単位数	20	単位数	20
サイズ	120	サイズ	30
難易度 Course No.	MODL1150	難易度 Course No.	ENGL2204
宿題の量	隔週セミナーに向けて二作品読んでいく	宿題の量	映画の予習、原作との違いや地域性を調査
コメント	津田塾で世界の文学(英語)と単位交換したいと思い受講した。1年生向けかつ概論のような授業なので、物語論など本来英文学部なら知らなくてはならないような基礎(恥ずかしながら私は知らなかった)も丁寧に教えてもらえる。この中では唯一セメスターをまたぐ授業。評価は1500字程度のエッセイが2本、1:1。	コメント	定員に達してしまっただけで登録はできなかったものの、先生と登録済みの友達に頼み込んで映画鑑賞には参加させてもらった授業。主な題材はリア王、マクベス、ハムレットで、ロシア、日本(黒澤作品)、インド、中国の映画を2本ずつ見た。映画を分析するのは日本の作品であっても難しかった。評価は1700字と2750字のレポートで3.5:6.5。
科目名		科目名	
授業内容		授業内容	
授業形式		授業形式	
単位数		単位数	
サイズ		サイズ	
難易度 Course No.		難易度 Course No.	
宿題の量		宿題の量	
コメント		コメント	

6	医療保険についてお書きください	
	渡航前に加入した保険	
	東京海上日動の海外留学保険	
	留学先大学にあった医療保険制度	
	学校でイギリスの国民保険制度であるNHSの申請をした。学内にNHSの病院があった。	
6	留学中に受けた診察(もし差し支えなければ記入してください)	
	なし	
7	費用について教えてください(実際にかかった費用のみ記入してください)	
	(現地通貨)	
	渡航旅費	197,430 円
	帰国旅費	往復での値段なので上に含 円
	引越し(往復で)	160,000 円
	保険	252,640 円
	語学研修費	0 円
	留学先学費	£15000 2,000,000 円
	本学学費	100,000 円
	教材費	£100 14,000 円
	住居費	£10000 1,300,000 円
	食費	£1500 食事付き寮+200000 円
	その他()	円
	()	円
	()	円
合計	£31323.77 4,224,070 円	
換算率 (£1 = 135 円)		
受給した奨学金(留学用、給付)があれば記入してください		
JASSO奨学金		
8	留学前の準備について教えてください	
	日本から持参すべきもの	
コンセントの変換プラグ(全ての型に対応しているものがおすすめ)、携帯のバッテリー、ウエストポーチや斜めがけの小さいバッグ(スリ対策になるので大事なものはそちらに入れる。スキミング防止機能が付いているとなお良し)、キッチン便利グッズ(レンジでパスタが茹でられたり、お米が炊ける道具)、パスタソース(意外と日本の洋食が恋しくなる! たらこパスタ、ペペロンチーノはほとんど見かけないので好きな人は要注意)、ホッカイロ、サニタリー用品、消臭剤、ラップ		
留学前にしておけばよかったこと		
夏休み中手続きばかりに追われて英語の勉強がおろそかになっていたもので、よりベストな英語の状態での渡航できると良かった。また語彙を増やすのは日本にいておく時間がないと勿体無いと思う。あとは、話題作の映画やドラマを英語で見しておくこと。英語の練習にもなるし、話のネタになり友達ができやすいと思う。(私は Sherlock や Harry Potter, Lord of the Rings つながりの友達ができただけの反面、ディズニーの英語版やローマの休日、マイフェアデューなどいわゆる名作を見ていなくて話についていけず後悔した。)		

9	<p>適応しにくかったこと(学習面・生活面)があれば、記入してください</p> <p>もともとこだわりや執着がないタイプなので割となんでも適応できた。ただ精神は適応しても体はイギリスの料理を受け付けなかった。また、冬は日照時間が少ないので鬱になる人が多く、生活の中のちょっとした違和感も重くとらえがちになる傾向になるので注意した方が良かった。</p>
10	<p>留学の成果(学習面・精神面)を教えてください</p> <p>教科書の英語から生きた英語へと変化したことが何よりの成長だと思う。渡英してすぐは周りの言うことがうまく聞き取れない、決まったことしか言えない、まどろっこしくて伝わらないと散々だったが、英語漬けの日々を送る中で会話に頻出する単語や表現を自分のものにしていくことができた。今では会話を楽しむこともできるし、字幕なしの映画や演劇鑑賞、一人旅も問題ない。英語テストのスコアも上がった。留学中に後期の授業の関係でIELTSを再度受験したが、スピーキングで7.0を取れたうえ、総合、他部門もそれぞれ上昇した。現在TOEIC、英検を申し込んでいる段階なのでそちらの具体的な数字での伸びは判り次第報告したいと思う。</p> <p>精神的にも大きく成長した。自分と他者は違って当然だという当たり前のことに気づき、比べて落ち込んだり苛立つのをやめた。その結果、以前よりのびのびと目標や夢に向かって一直線に努力できるようになったと思う。頭脳も人格も優れた多くの友達との出会いは私に良い刺激を与えてくれた。</p>
11	<p>今後の学習計画および進路について(就職活動)教えてください</p> <p>すでに何社かインターンに申し込み、就職活動を始めている。</p>
12	<p>留学を目指す後輩へのメッセージをお願いします</p> <p>就職への影響や英語スコア、金銭面から留学をためらっている人もいるかもしれませんが。実は私もそうで、協定校の試験のギリギリ直前になって勢いで申し込みました。今では、あの時の決断は間違っていなかったと胸を張って言えます。確かに、奨学金をもらっていたとはいえ親には迷惑をかけたかもしれません。しかし海外、しかも大好きなイギリスで勉強に励み、仲間と共に過ごした一年間は何ものにも代えがたい貴重な経験となりました。自分の英語力や文学の知識の足りなさを感じ朝早くから勉強したこと、夜遅くまで仲のいい友達と学術的なことからラフな話題までネタが尽きずずっとおしゃべりしたこと、ワクワクしながら見た20本以上の映画や演劇、魅力的な街並み、刺激的だった一人旅・・・すべてが宝物です。どれも私を能力面でも、精神面でも大きく成長させてくれました。これらの経験が決して無駄ではないこと、私が身をもって証明してみせます。ですので留学を目指す皆さん、是非安心して一步を踏み出してみてください。この報告書があなたの背中を押すお手伝いになったのなら、嬉しい限りです。</p>
13	<p>その他、ご自由に意見を書き込んでください</p>

写真1 パフォーミングアーツサークルのショーケースでの一枚



ロンドン旅行の写真(複数)

